

平成27年度 学校評価 まとめ

I アンケート調査より

1 アンケート調査の内容と方法

- ① 調査用紙：教職員用，保護者用，児童用
- ② 調査法：マークシート法
- ③ 調査日：第1回 平成27年7月 第2回平成28年2月

2 設問内容と集計方法

設問は平成22年度より11項目となり，問題内容も22年度より同一である。また，教職員用，児童用，保護者用とも同じ内容の設問とし，両者の比較ができるようにした。

また，選択肢は，A「そう思う」 B「だいたいそう思う」 C「あまりそう思わない」 D「そう思わない」の4段階とした。

なお，1年生については，児童への1学期の調査は難しいと判断し，行わなかったが，第2回は実施した。

児童用の調査については，インフルエンザの流行や，その他の事情により，どうしても調査ができなかった児童がいる。また，保護者については，兄弟がいる場合には児童ひとりずつについて，回答をお願いしたが，全員に提出してもらうことはできなかった。

調査結果については，保護者用，児童用ごとに学年別に集計し割合で表した。教職員用は別に集計した。

考察では，第1回と第2回のデータを並べて提示し，A「そう思う」，B「だいたいそう思う」を合わせた割合を精査し，共通する傾向や，第1回目から第2回目へ，どのような変化があったかを比較した。

「A+B」の評価が低い項目については，状況を変えるために行っている取り組みを挙げ，改善できた点，改善しきれずこれからの課題として残っている点について示した。

3 調査結果より

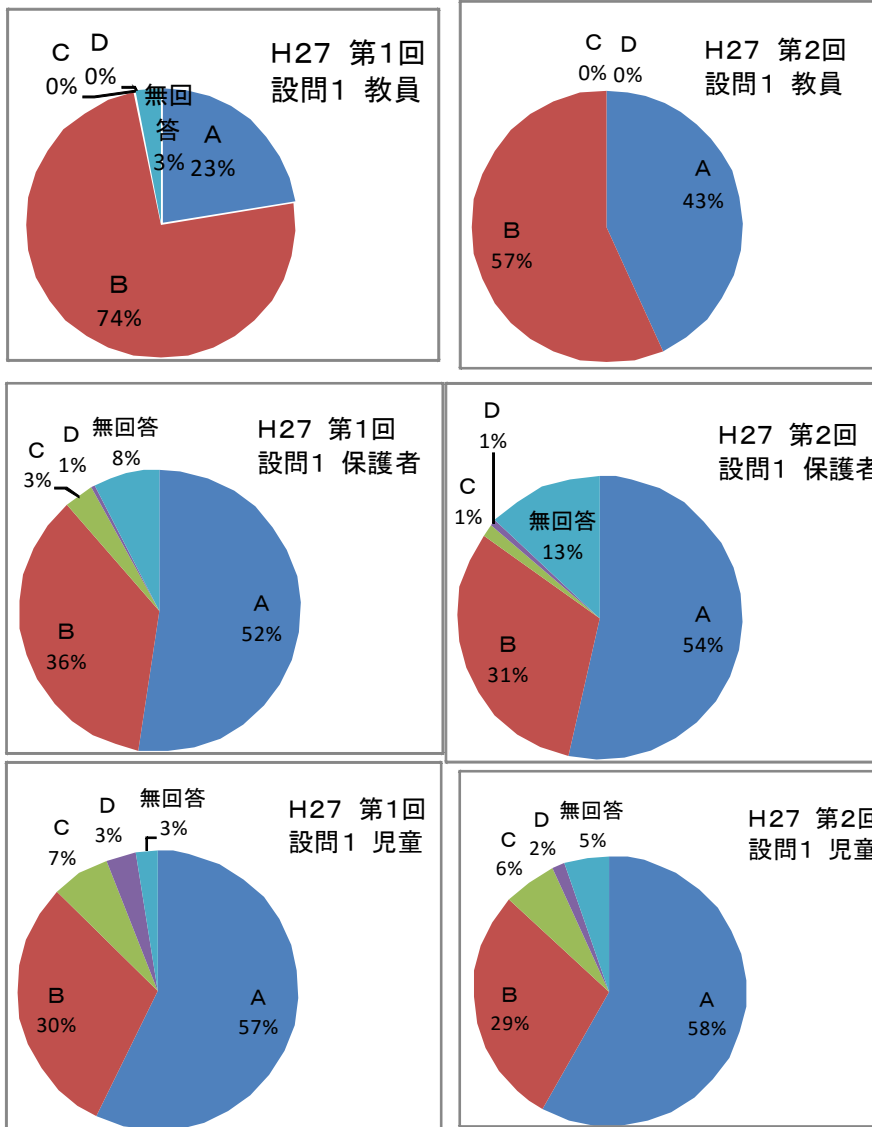
(1) 設問1 (楽しい学校生活) から

〈設問1〉

子どもは、楽しく学校生活を送っている。(教職員用)

毎日学校が楽しい。(児童用)

子どもは楽しく学校生活を送っている。(保護者用)



第1回・第2回調査で、「A+B評価」の割合は次のようになった。

<教員> 97% → 100%

<保護者> 88% → 85%

<児童> 87% → 87%

- ・ほとんどの教員が、児童は楽しく学校生活を送っていると感じている。その割合は、2回目に増えている。
- ・多くの児童が楽しいと感じているが、一定数の児童は、楽しいと感じていないことが分かる。
- ・児童の「A+B評価」は、2回目に少し減っている。

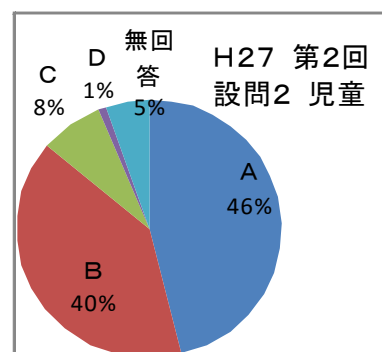
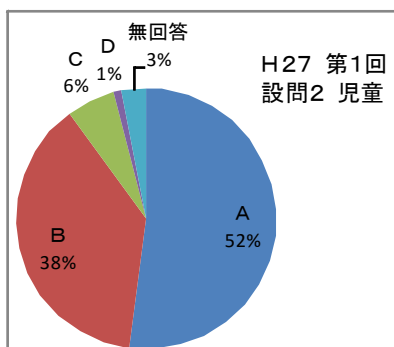
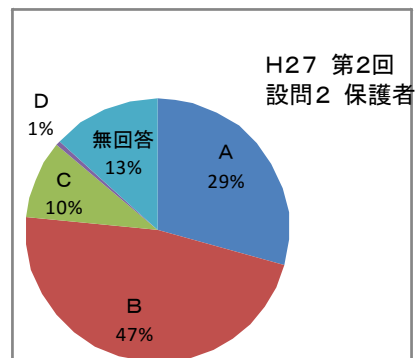
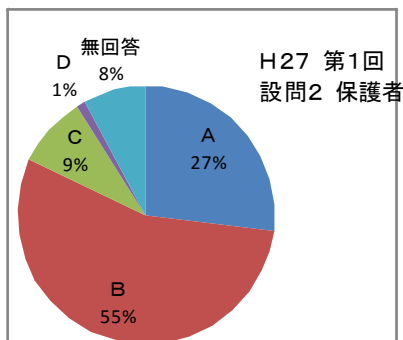
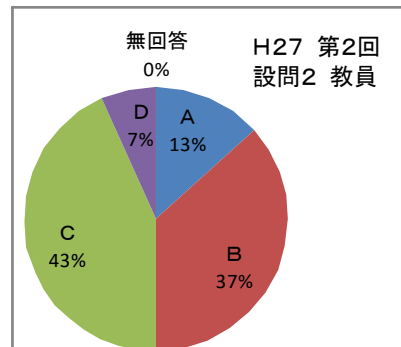
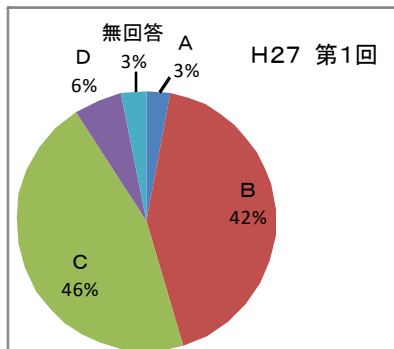
(2) 設問2 (あいさつや言葉づかい) から

〈設問2〉

「おはよう」などのあいさつや、「ありがとう」「ごめんなさい」などのあたたかい言葉づかいができています。(教職員用)

「おはよう」のあいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」のあいさつが言えている。(児童用)

「おはよう」のあいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」のあたたかい言葉づかいができています。(保護者用)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 45% → 50%

<保護者> 82% → 76%

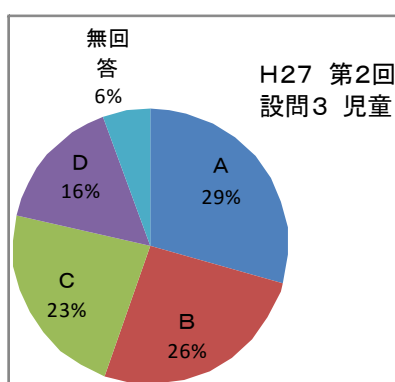
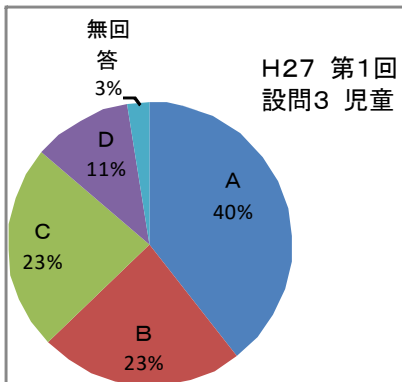
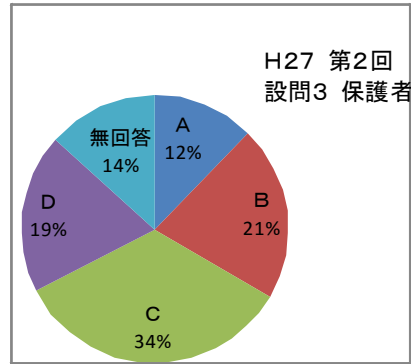
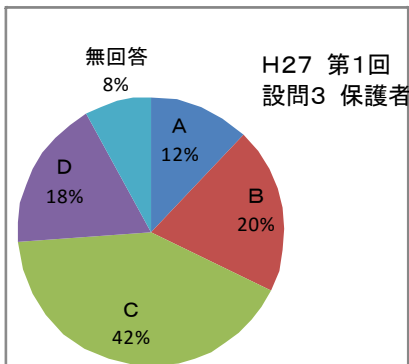
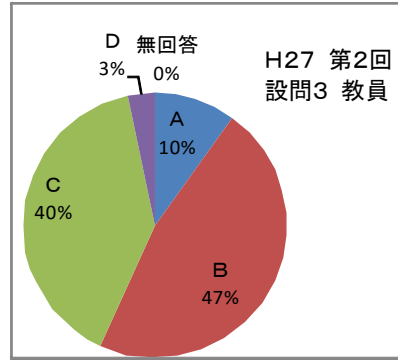
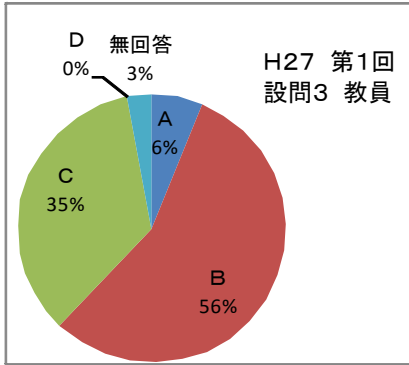
<児童> 90% → 86%

- ・半数の教員が挨拶ができていないと厳しく考えている。
- ・挨拶ができていないと考えている児童の割合は高い。保護者の割合は児童ほどは高くないが、それでも3/4はできていると感じている。
- ・立哨当番の記録などを見ると、挨拶ができていないと評価する保護者とそうでないと考えている保護者に差が見られる。
- ・自己評価(児童や保護者)と他者(教員)評価との差が大きい。

(3) 設問3 (読書の習慣) から

〈設問3〉

(毎月の目標読書冊数は 高学年5冊 中学年7冊 低学年10冊)
 子どもは、読書の習慣がついている。(教職員用)
 まい月、決まった目標のさつ数、本が読めている。(児童用)
 子どもは読書の習慣がついている。(保護者用)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

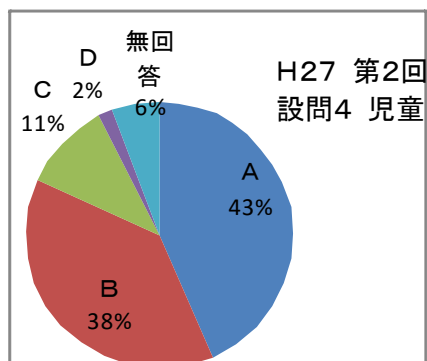
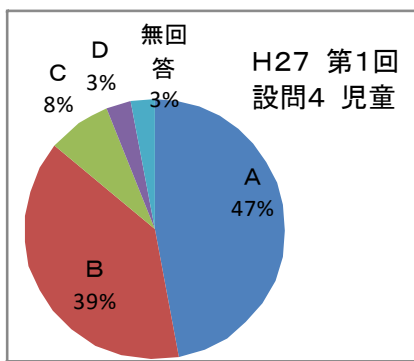
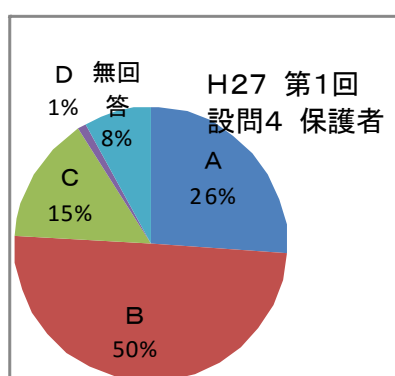
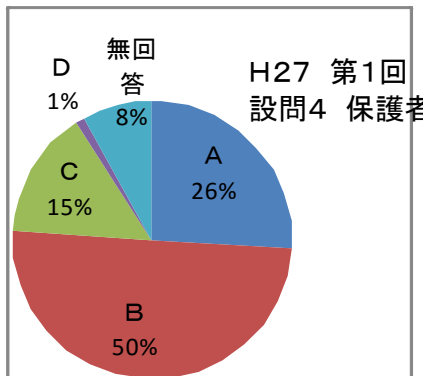
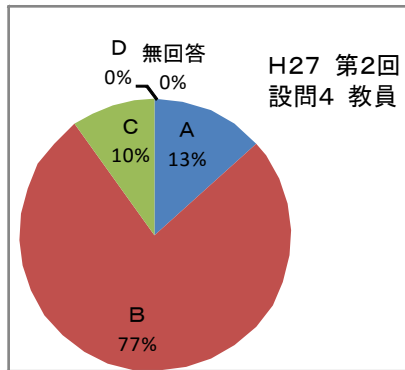
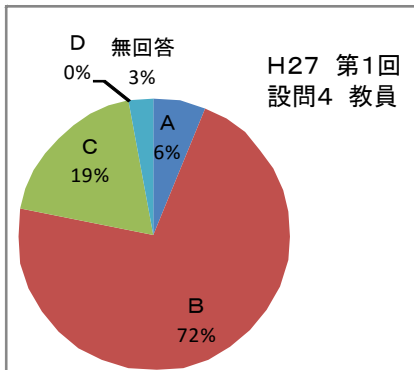
<教員> 62% → 57%
 <保護者> 32% → 33%
 <児童> 63% → 55%

- ・教員の評価は低く、さらに2回目は下がっている。
- ・保護者の評価も大変厳しく、1/3しか「A+B評価」がない。
- ・児童自身も、半数を少し越えるほどしか読書習慣がついていると感じていない。

(4) 設問 4 (学習用具の準備) から

〈設問 4〉

子どもは、学習用具の準備がきちんとできている。(教職員用)
 いつも学習用具の準備ができている。(児童)
 子どもは学習用具の準備ができている。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 78% → 90%
 <保護者> 76% → 76%
 <児童> 86% → 81%

- ・教員は、1回目から2回目の評価がよくなっている。
- ・児童は、8割を超える児童が学習準備はできていると感じているが、保護者は、評価が低い。

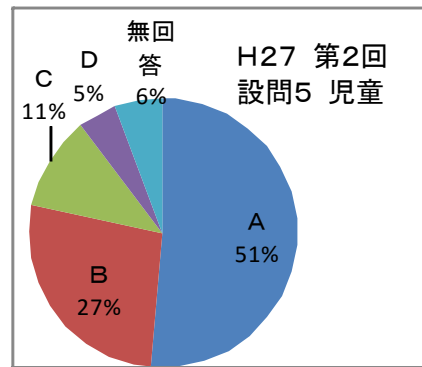
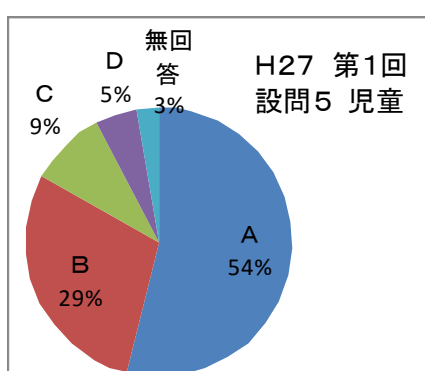
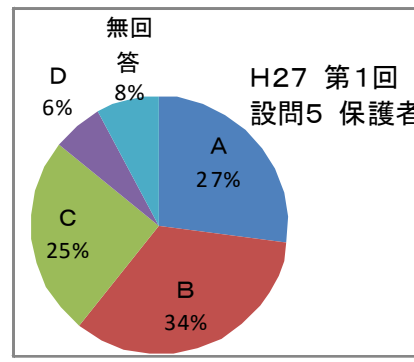
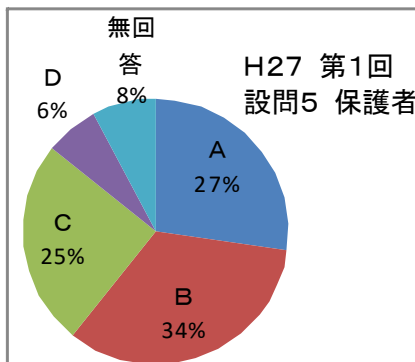
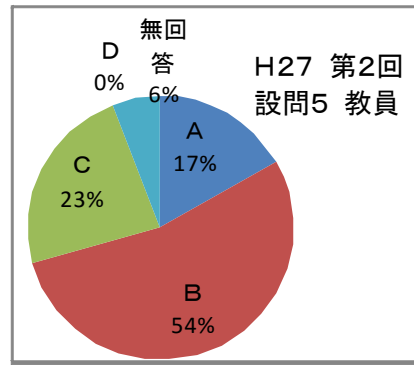
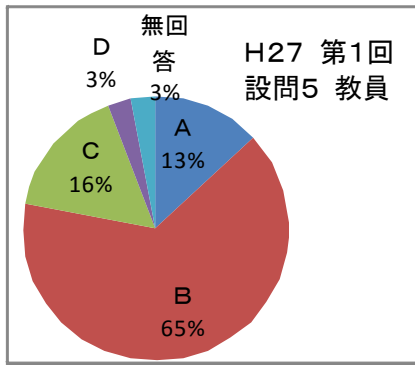
(5) 設問5 (家庭学習) から

〈設問5〉

子どもは、毎日、(10×学年)分間以上、家庭学習をしている。(例3年10×3=30分(教職員用))

家で毎日決まった時間宿題や勉強ができています。(児童)

子どもは毎日(10×学年)分以上、家庭学習をしている。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B評価」の割合は次のようになった。

<教員> 78% → 71%

<保護者> 61% → 61%

<児童> 83% → 78%

・教員の評価は7割程度で、2回目に下がっている。児童の方も下がっているが8割程度できていると評価している。

・保護者は厳しい評価で、家庭学習ができていると感じているのは6割程度しかない。宿題以外の学習を期待しているのではないか。

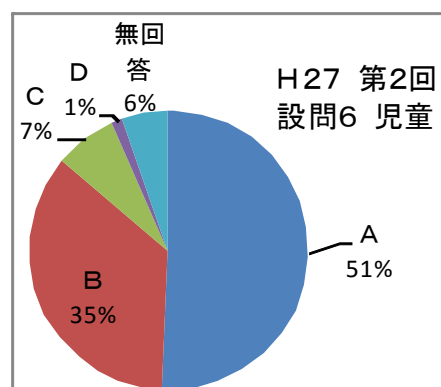
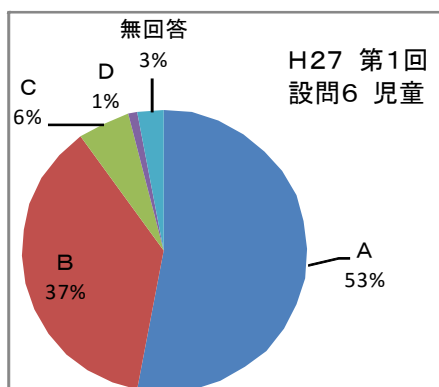
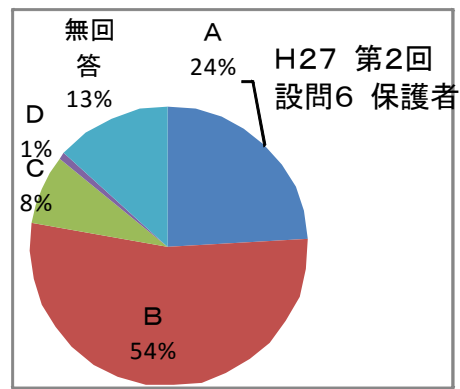
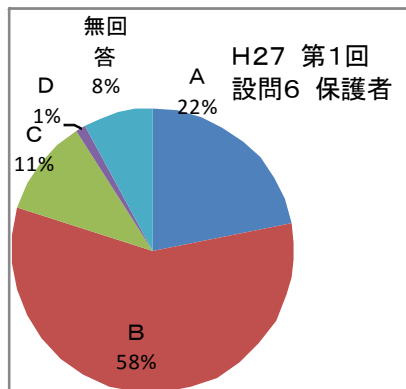
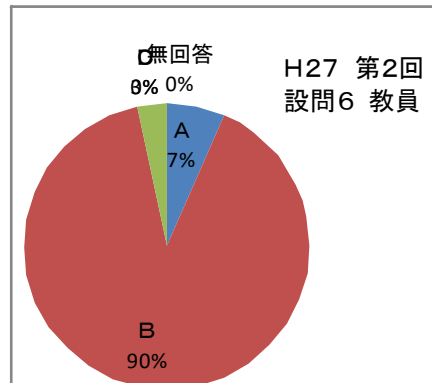
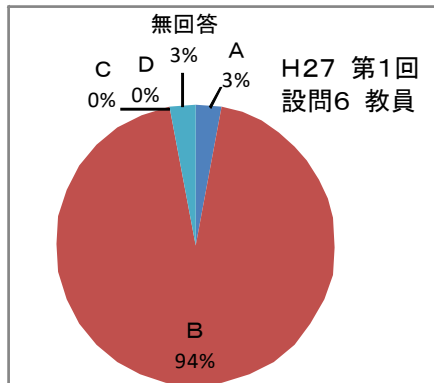
(6) 設問 6 (授業内容の理解) から

〈設問 6〉

子どもは、授業の内容について理解できている。(教職員用)

いつも授業の内容がよくわかる。(児童)

子どもは授業の内容について理解できている。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 97% → 97%

<保護者> 80% → 78%

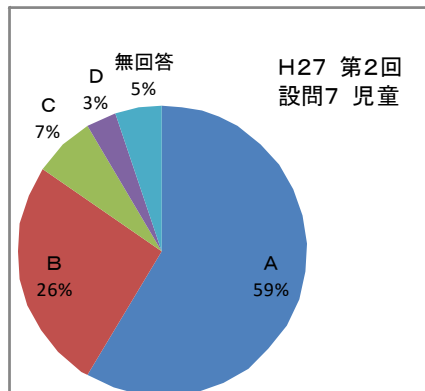
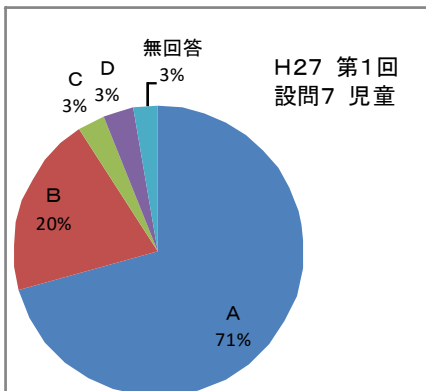
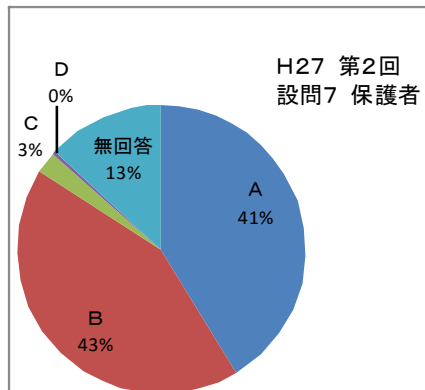
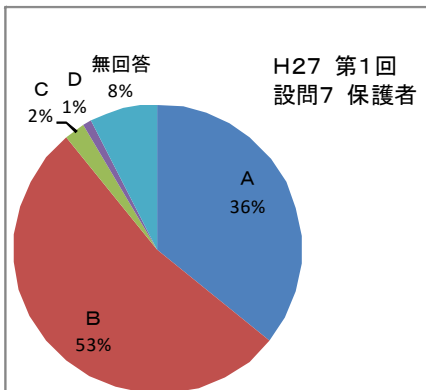
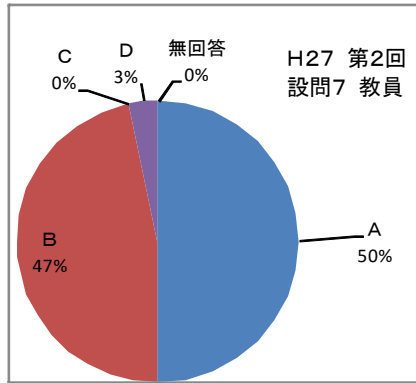
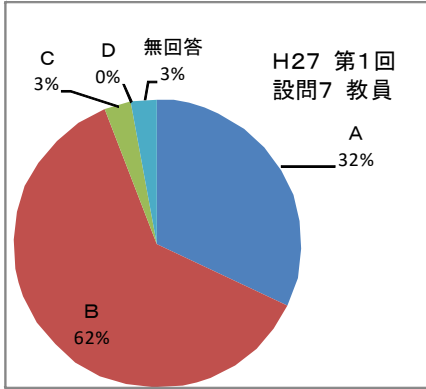
<児童> 90% → 86%

- ・教員は、よく理解できていると考えている。
- ・児童も、2回目少し下がっているが、理解していると感じている子が多い。
- ・保護者はやや厳しい見方をしている。学習内容が定着しているかどうかを評価しているのではないかな。

(7) 設問7 (教員の子ども理解・公平な評価) から

〈設問7〉

先生は、子どもをよく理解し、公平に評価している。(教職員用)
 先生は、自分のことをよくわかってきて、みんなに平等だ。(児童)
 子どもは先生によく理解され、公平に評価されている。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

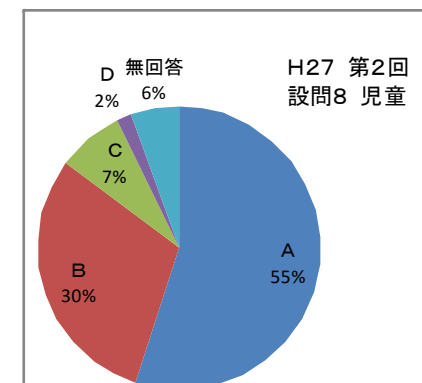
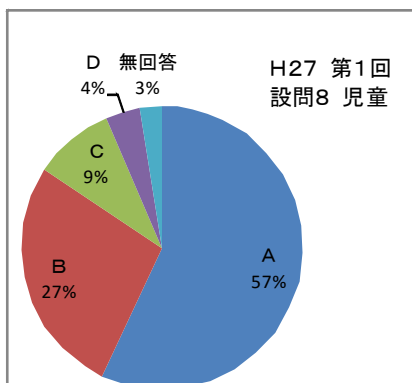
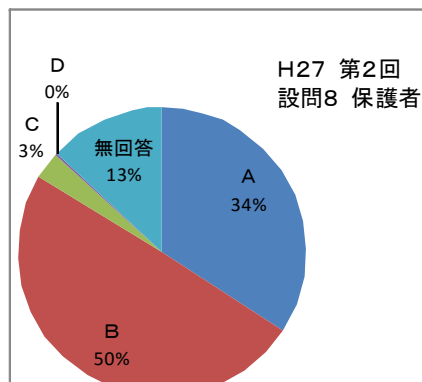
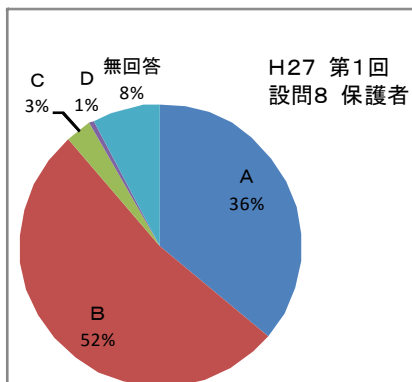
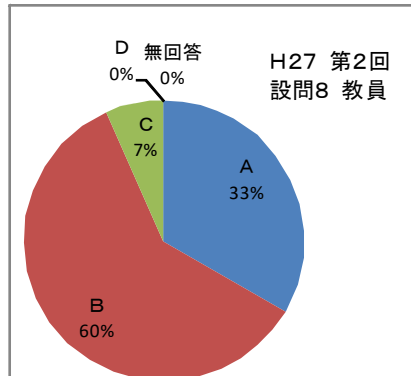
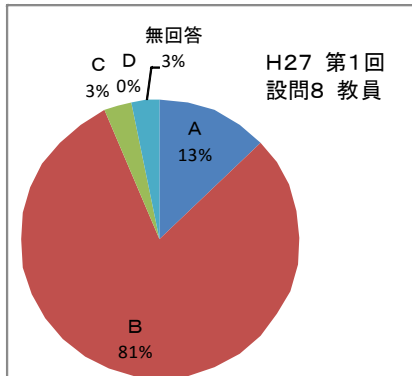
<教員> 94% → 97%
 <保護者> 89% → 84%
 <児童> 91% → 85%

- ・教員のほとんどが、児童に公平に接していると考えている。
- ・保護者、児童とも8割程度が公平に接していると考えているが、保護者・児童ともに「A+B 評価」の割合が少し下がっているため、指導の仕方に納得していない方がいるのではないかと考えられる。

(8) 設問 8 (仲間作り) から

〈設問 8〉

子どもや周りの友だちは、みんなに大切にされている (教職員用)
クラスの友だちはやさしく、いじめたりしない。(児童)。
子どもやまわりの友だちは、みんなに大切にされている。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 94% → 93%

<保護者> 88% → 84%

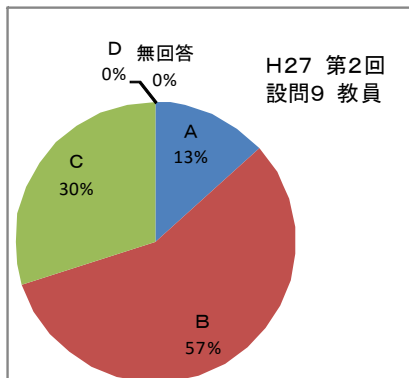
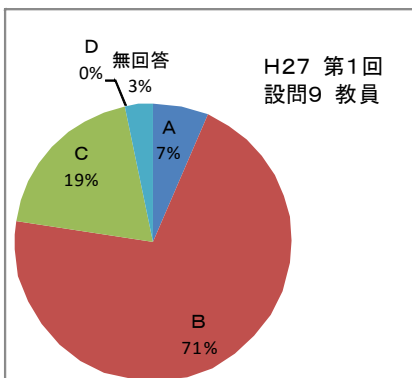
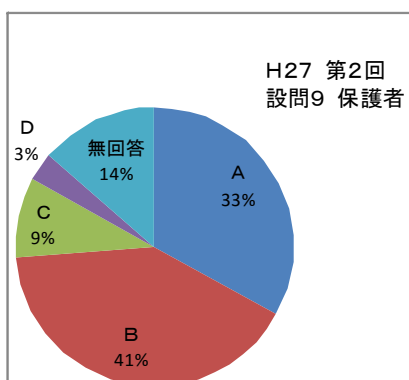
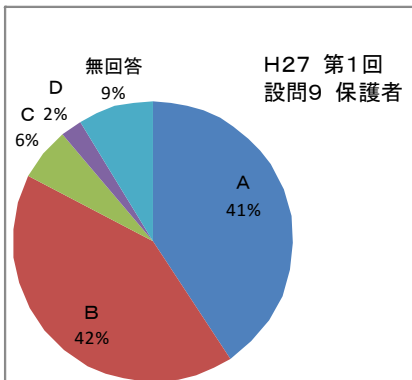
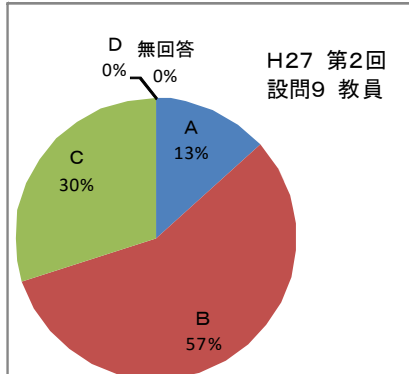
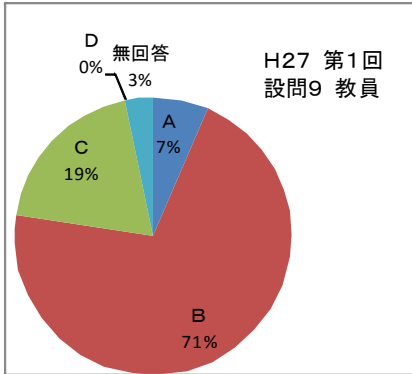
<児童> 84% → 85%

- ・多くの教員は、友達から大切にされていると考えている。
- ・児童は、85%前後で変化がないが、保護者は、少し「A+B 評価」評価が減っている。

(9) 設問 9 (集団登校) から

〈設問 9〉

子どもは、毎日、登校班で仲良く安全に登校できている。(教職員用)
 とうこうはんで、時間を守って仲良く登校している。(児童用)
 子どもは、毎日、登校班で仲良く安全に登校できている。(保護者用)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 78% → 70%
 <保護者> 83% → 74%
 <児童> 78% → 70%

- ・教員は、第1回調査で78%だった割合が70%へと下がっている。
- ・保護者も、「A+B 評価」が83%から74%に減っている。
- ・児童は、できていると考えている子が多い。
- ・最初に登校班を組んだ段階から集団登校ができない児童もいるが、多くの児童はがんばって登校できていた。ところが、他の児童も、学期が進むにつれ集団登校ができなくなっている児童が増えてきている。

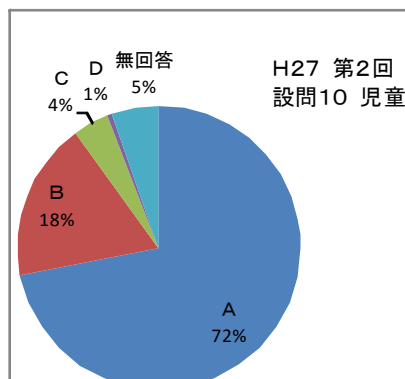
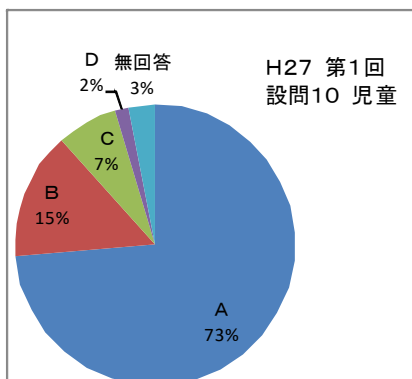
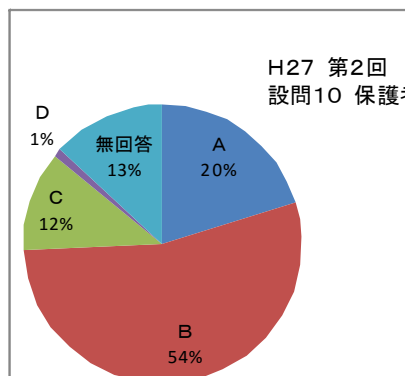
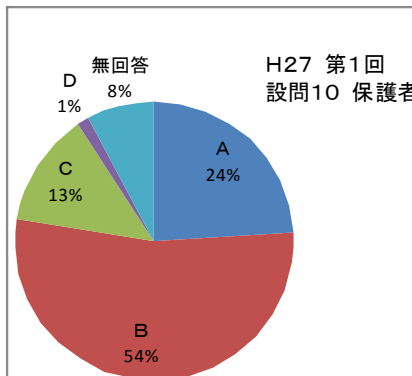
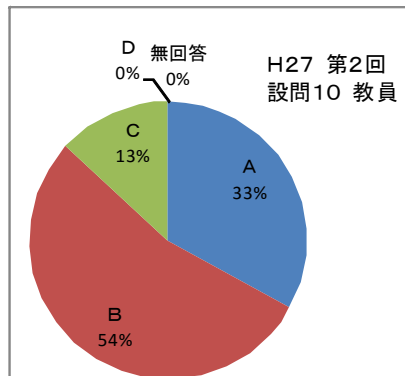
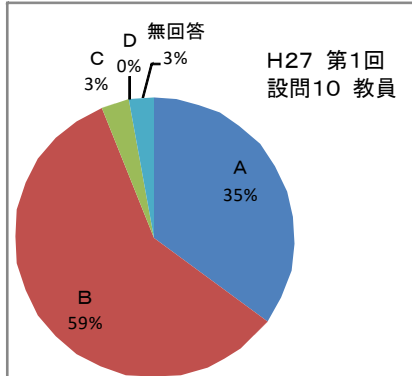
(10)設問 10 (学校の活動の理解) から

〈設問 10〉

「くらしのあゆみ」やおたよりを通じ、学校や子どもの様子を家庭の方によく分かるように伝えている。(教職員用)

「くらしのあゆみ」を毎日きちんと書いている。(児童用)

「くらしのあゆみ」やおたよりを通じ、学校や子どもの様子がよくわかる。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 94% → 87%

<保護者> 78% → 74%

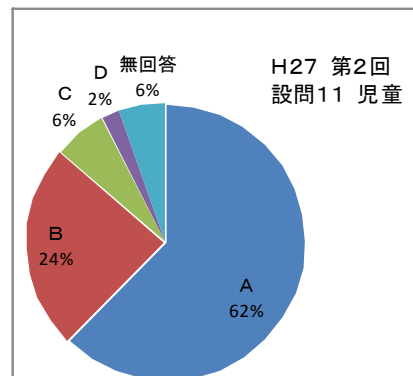
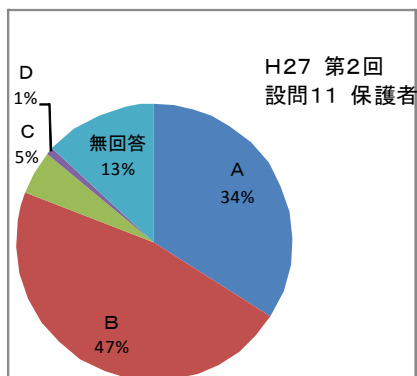
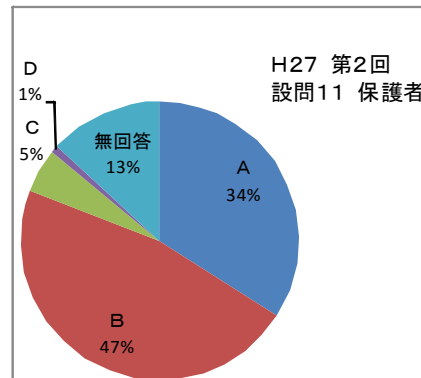
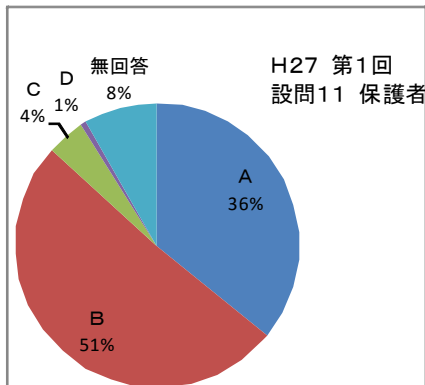
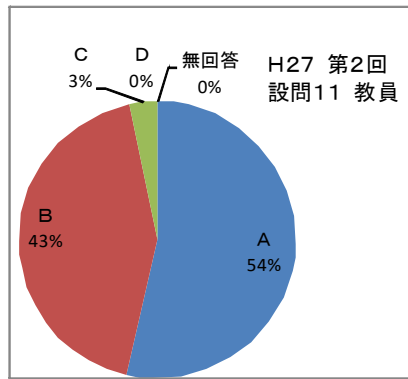
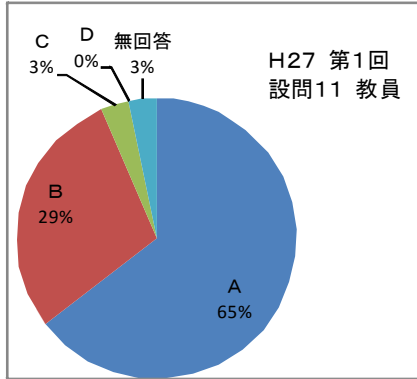
<児童> 88% → 90%

- ・教員の「A+B 評価」は、第2回目で少し下がっているが、高評価をしている。
- ・児童も9割とよい評価をしている。
- ・保護者は、第2回で評価を下げ、教員・児童より厳しい見方をしているが、これは、学校側や児童が考えている情報と、保護者が知りたい情報とに、少し違いがあるからではないか。

(11)設問 11 (保護者対応・児童の相談への対応)

〈設問 11〉

学校は、子どもや保護者の相談に積極的に対応している。(教職員用)
 先生は、こまったことをそうだんしたら、よくかんがえてしんせつにこたえてくれる。
 (児童用)
 学校は、子どもや保護者の相談に積極的に対応している。(保護者)



第1回・第2回調査で、「A+B 評価」の割合は次のようになった。

<教員> 94% → 97%
 <保護者> 87% → 81%
 <児童> 81% → 86%

- ・教員は、きちんと対応できていると考える人がほとんどである。
- ・児童の方も、「A+B 評価」は高い。
- ・保護者は、第2回目で6%も下げている。保護者対応の研修の必要あり。

4 考察

調査結果より大きく改善を必要とする項目は、次の通り。

①あいさつ

教員からの評価が低く、なおかつ、朝の立哨指導などの記録から、あいさつができていない実態がわかる。

②読書の習慣

教員・保護者・児童のいずれの評価も低い。

5 取り組み

(1) あいさつ

毎朝、学校長が、校門の前の道路の交通指導を兼ねてあいさつの指導を行っている。あいさつの有無はもちろん、体調が悪そうな児童については職員室で話題に出し、健康状態を確認している。

児童会役員とJRC委員会の児童が、水曜日、校門のところに立ってあいさつ運動を行っている。また、PTAの方が、学期に一度、交通指導とあいさつ運動として、活動を行っている。

地元の有志の方が、スクールガードとして、登下校の安全指導を行ってくれているが、その中でもあいさつの呼びかけはしていただいている。

あいさつができない児童は体調が悪かったり、元気でなかったりする。無表情や不機嫌な顔つきのまま登校してくる児童が増えている。

食育として、朝から元気に登校するためには、朝食をしっかりと取ってくるのが大切であると学習している。

また、あいさつの大切さについて、道徳の時間や朝・夕の会で話し合っている。

(2) 読書の習慣をつける取り組み

石井小学校では、毎年、読書を盛んにするために、次のような取り組みを行っている。

(読書をさかんにするための取り組み)

石井小学校

1 読書に関心を持ってもらうために。

① 先生による読み聞かせ

朝の活動の時間などに読んでいる。

② 子読書

2年生のみ、年6回。読書活動を通して、親子のふれあいを深め読書の習慣を身につけさせる。

③ 子読書サークル「れいんぼう」

保護者の自主的なサークル活動。読み聞かせ・ペープサート・エプロンシアターなど、様々な手法・形態で読書活動し、子どもたちに読書の喜びを体験させ、本に親しみを持たせている。2年生・保護者の親子読書活動に対する指導・助言も行っている。

④ 「おはようおはなし会」

本年度途中より、お母さん方が、毎月、各学級の朝の活動の時間に「おはようおはなし会」として、読み聞かせをしてくれることになり、子どもたちが楽しみにしている。

⑤ 読書フェスティバル

図書委員会により啓発活動。

2学期にワークスペースで行っている。

昨年度 低学年向け … 絵本の読み聞かせ 中学年向け … 国語辞書引き
高学年向け … 漢字辞書引き

- ⑥ 図書委員会による放送での読み聞かせ
給食時間の校内放送で、食育についての本の読み聞かせを行っている。

2 実際に読書をするために

- ① 朝の活動の時間（8:15～8:35）
木・金 朝の読書の時間に行っている。
- ② 宿題に読書を出し、毎月の目標冊数を設定し、読書を促す。
（低学年10冊、中学年7冊、高学年5冊）
- ③ ワークスペースや学年準備室にも本をたくさん置き、本を借りやすくする。
- ④ 学年ごとにおすすめ図書を選定し、設置する。

取り組みはたくさん増えた。しかしながら、図書室が遠く、ワークスペースの本も古いので、そこが本を借りにくいマイナス要因となっている。

II 学校関係者評価から

- ① 学校評議員の方には、次の行事の時に案内しご参観いただいている。
・入学式（4月9日） ・運動会（10月4日）
・学習発表会・校内発表会（11月11日） ・卒業式（3月16日）
行事ごとに、感想をいただいている。本年度も、「よく練習されている。」「よい発表ができていますね。」などのご意見をいただくことが多かった。
- ② アンケート項目に対する評価
11月11日、学習発表会校内発表会の後に学校評議員の方4名に集まっていた
き、第1回学校評価アンケート結果と取り組みの説明をもとに、ご意見を伺った。
「やはり、あいさつができていない。」「学習に集中できない子が増えているので
は。」などの指摘があった。